

平成 28 年度 宝木小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる判断力、新しい時代を拓く^{フロンティアスピリット}開拓者精神に基づく実践力をもち、夢に向かって心豊かにたくましく生きる児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

たくましい子（心身共に健康で、強い意志をもって粘り強く行動する）

よく学ぶ子（基礎学力を確実に身に付け、自ら考え主体的に学習する）

やさしい子（互いを尊重し、思いやる心を大切にしていとほかかわり、ルールやマナーを守り、適切に判断・行動する）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

やさしさ 勇気 喜び そして 夢

学校のシンボルとなっているメタセコイアの木がある。絶滅したと考えられていたこの木は、中国で発見され現在に至ることから、「生きている化石」とも言われる。メタセコイアには壮大な過去があり、そして今がある。そして、未来へと、その生命を繋いでいく。力強い生命力（生きる力）に宝木小の子どもたちの成長を重ね合わせたい。

夏には木陰をつくりやさしくそと子どもたちを包むメタセコイア。その姿のように、子どもたちの心に「やさしさ」を育てたい。前に進もうと努力するときは、力強く根を張るメタセコイアに「勇気」を感じさせたい。メタセコイアの前で共に遊ぶときに広がる笑顔と喜び。日々の学習や活動での「できた喜び」、「分かった喜び」、「伸びた喜び」を大切にしたい。そして、メタセコイアが天空に向かってぐんぐん伸びる姿に、未来への「夢」をえがく子どもたちに育つことを願いたい。

メタセコイアがくれる「やさしさ 勇気 喜び そして 夢」。それは、メタセコイアと共に成長してほしい宝木小の子どもたちの姿であり、本校教育活動の理念である。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 子どもにとって、わくわくする楽しい学校

・アプローチⅠ：分かる喜び、できた喜び、向上していく喜びが自覚できる授業づくり

○学習習慣の改善と学ぶ意欲を引き出す学業指導！ — 学び続ける態度の育成 —

・アプローチⅡ：友達がいる、いじめがない、安心感がある学級づくり

○“認め励まし、教え導く！” — 心の通い合う人間関係と、やる気の育成 —

(2) 保護者にとって、安心して子どもを通わせられる学校

・アプローチⅣ：学校の方針・取り組み状況等を広く公表

“相互理解と相互連携の構築！” — 子どものよりよい成長を軸に —

(3) 地域にとって、信頼できる開かれた学校

・アプローチⅤ：地域の皆さんとの強い絆づくり

“地域と学校の相互交流による信頼関係の構築！” — 地域の宝としての子どもを軸に —

(4) 教職員にとって、自分の力を十分に発揮できる、やりがいのある学校

・アプローチⅢ：教職員一人一人が活躍する学校づくり

“同僚性を生かし、教育目標実現に向けた不断の追求！” — 報・連・相を通して —

[陽西地域学校園教育ビジョン]

共に学びあい、互いのよさを認め合う人づくり

—社会的自立を目指すキャリア教育を通して— （自分のよさを活かして、粘り強く頑張る子どもに）

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 特色ある学校づくりの展開

・「やさしさ 勇気 喜び そして 夢」を軸とした特色ある教育活動の推進

(2) 学習指導の充実

○基礎的な学習態度・学習習慣の形成と基礎的基本的な学習内容の定着

・特別支援教育の充実：通常の学級での特別支援教育

・学びに向かう集団づくり

(3) 心を育む教育活動の推進

○命を大切にし、思いやりの心を育む心の教育の推進

・校内支援委員会の一層の充実（配慮を必要とする児童の早期発見と組織的対応）
(4) 児童指導の充実 ○基本的生活習慣の形成（「児童のやくそく」の徹底） ・生命と人権の尊重を軸とした、いじめを許さない態度や実践力の育成 ・「宝木の子ファイル」の活用による、児童の記録累積と活用
(5) 地域の学校づくりの推進 ・学校の取組の積極的な情報発信と家庭教育に役立つ情報の提供 ・地域協議会を軸とした、各種ボランティア等、地域の教育力の活用
(6) 教職員の資質の向上 ・専門性を高めるための自己研鑽と同僚性の構築（学校課題研修、一人一授業） ・自己の向上を目指した目標管理とゆとりを生み出す校務の整理・効率化の推進（「児童と向き合う時間」の確保）
(7) 地域学校園を活かした活動の充実 ○地域学校園のビジョンである「キャリア教育」の推進 ○情報の共有、協働活動を通じた小中連携の充実
平成 28 年度スローガン “自分に自信を 学校・地域に誇りを 人とのふれあいを大切に”

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 <児童アンケート>自分は、学校が好きである→80%以上 <保護者/地域住民アンケート>学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である→80%以上	日課を見直しゆとりを持たせ、行事の目当てを明確に示し、児童の主体的な活動の時間や教師が共に過ごす時間を効果的に確保するように努めていく。 清掃後のゆとりの時間は、児童の生活にめりはりがつき有意義であるので継続していく。	B	【達成状況】 A1 児童の肯定的回答 90.7% (87.5%) 保護者の肯定的回答 92.6% (93.1%) 地域住民の肯定的回答 100.0% (100.0%) 【次年度の方針】 日課を見直しゆとりを持たせ、行事の目当てを明確に示し、児童の主体的な活動の時間や教師が共に過ごす時間を効果的に確保するように努めていく。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 <児童アンケート>先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる→80%以上 <保護者/地域住民アンケート>教職員は、協力し、教えるべきことを熱心に指導している→80%以上	教職員の教科指導における指導力を高めるため、一人一授業の実践を継続していく。 また、保護者・地域住民に対して、学校だより等により本校の学習状況の取り組みを知らせたり、授業参観を利用したりして積極的に情報を発信していく。	B	【達成状況】 A2 児童の肯定的回答 97.1% (96.6%) 保護者の肯定的回答 89.5% (90.9%) 地域住民の肯定的回答 100.0 % (100.0%) 【次年度の方針】 教職員の教科指導における指導力を高めるため、一人一授業の実践を継続していく。 また、保護者・地域住民に対して、学校だよりや学年だより、学習だよりにより本校の学習状況の取り組みを知らせたり、授業参観を利用したりして積極的に情報を発信していく。

A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 <児童アンケート>児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している →80%以上 <保護者/地域住民アンケート> 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している →80%以上	教職員の共通理解のもと、児童指導主任を中心に、同一步調で指導に当たるなど校内体制の充実を図りながら児童指導に努めるとともに、指導方針を明確にした資料等を配付し、家庭教育との連携を図る。	【達成状況】 A3 児童の肯定的回答 82.2% (77.3%) 保護者の肯定的回答 86.7% (90.0%) 地域住民の肯定的回答 100.0% (91.7%) 【次年度の方針】 教職員の共通理解のもと、児童指導主任を中心に、同一步調で指導に当たるなど校内体制の充実を図りながら児童指導に努めるとともに、指導方針を明確にした資料等を配付し、家庭教育との連携を図る。<u>また、児童の実態に合わせて生活目標を立てることで児童一人一人がきまりを守り安全に生活できるように支援していく。</u>
A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 <児童アンケート>先生方の授業は、分かりやすく、丁寧に教えてくれる →80%以上 <保護者アンケート>教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている→80%以上	校内研修や「一人一授業」を通して、教員の一層の指導力向上に努めるとともに、目当てを明確にしたわかる授業の展開に努め、達成感を得られる授業の展開を目指す。また、褒めることにより児童の学習意欲を高め良い循環を作り出す。 さらに、授業参観やオープンスクール等で積極的に授業中の取組を公開し、保護者の理解・協力を得られるようにする。	【達成状況】 A4 児童の肯定的回答 96.9% (94.0%) 保護者の肯定的回答 81.5% (84.8%) 【次年度の方針】 外部講師を招いての授業研究会や「一人一授業」を今後も継続し、授業の質的向上を目指すとともに、一人一人の実態をよく把握しながら、きめ細かな指導を推進していく。授業の取組がわかるよう情報発信に努める。
A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 <児童アンケート>先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる→80% <保護者/地域住民アンケート> 学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。→80%以上	本校のいじめ対策や取組状況についての情報を提供できるよう努める。特に、いじめ0月間に重点的に道徳の授業や児童会中心にいじめ対策に取り組む。 また、保護者・地域住民と連携して、共に児童を見守る。	【達成状況】 A5 児童の肯定的回答 98.7% (96.7%) 保護者の肯定的回答 63.1% (59.1%) 地域住民の肯定的回答 100.0% (92.3%) 【次年度の方針】 本校のいじめ対策や取組状況についての情報を提供できるよう努める。特に、いじめ0月間に重点的に道徳の授業や児童会中心に<u>集会を開くこと</u>でいじめ対策に取り組む。また、保護者・地域住民と連携して、共に児童を見守る。
A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 <児童アンケート>自分は、学校での生活や様々な活動が充実している→80%以上 <保護者アンケート>学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている。→80%以上	本年度実施した2か月に1度の教育課程の振り返りを次年度も実施し、年度途中で改善できる点は改善していく。 また、教育活動の目標の明確化に努め、保護者や地域住民にも理解を得ていく。	【達成状況】 A6 児童の肯定的回答 89.0% (89.1%) 保護者の肯定的回答 96.0% (97.5%) 【次年度の方針】 定期的に教育課程の実施状況や行事の取組を振り返り(Check)改善が必要な項目について検討しながら(Action)計画を修正し引継ぎ(Plan)できることから実践 (Do 場合によっては次年度) する。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 ＜保護者/地域住民アンケート＞ 学校は、学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している →80%以上	ホームページや各種たよりにおいて、保護者・地域に理解を深めてもらいたい内容について、効果的に情報発信を行っていくよう工夫・改善を図る。 また、地域協議会の活動内容について教職員の理解を深め、ボランティアの有効的な活用が図れるようにする	【達成状況】 A7 保護者の肯定的回答 93.7% (93.3%) 地域住民の肯定的回答 100.0% (100.0%) B 【次年度の方針】 ホームページや各種たよりにおいて、保護者・地域に理解を深めてもらいたい内容について、効果的に情報発信を行っていくよう工夫・改善を図る。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞自分は、地域や企業の方々と一緒に活動したり勉強したりすることで、学習が充実し楽しい →80%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞ 学校は、家庭・地域/企業と連携協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている→80%以上	地域協議会と地域連携教員が連携し、地域社会や保護者の教育力を積極的に生かし、学校教育の充実を図る。また、地域協議会の取組について機会を捉えて情報提供するとともに、地域と連携した教育活動の実践についても理解を深められるようにする。	【達成状況】 A8 児童の肯定的回答 88.1% (85.8%) 保護者の肯定的回答 90.93% (92.1%) 地域住民の肯定的回答 100.09% (92.3%) B 【次年度の方針】 社会に開かれた教育課程の理念へ向かって「魅力ある学校づくり地域協議会」やPTA・保護者等との連携を密にして地域に根差した学校づくりを推進する。また、「外部との連携を図った教育活動一覧」を作成しきちんと位置づけ、計画的な取り組みを目指す。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすく気持ちのよい環境である →80%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞ 学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である →80%以上	清掃の仕方を理解させ、自分たちできれいにする意識を高める指導に努める。 また、毎月の安全点検等を十分にを行い、市とも連携をとりながら修繕・補修を迅速に行う。	【達成状況】 A9 児童の肯定的回答 84.8% (84.2%) 保護者の肯定的回答 90.6% (92.9%) 地域住民の肯定的回答 100.0 % (76.9%) B 【次年度の方針】 気持ちのよい学校生活を送るために清潔にする意義や清掃の仕方を理解させ、清掃活動に進んで取り組む児童を育てることに努める。
B 1 家庭・地域社会との連携・協力をもとに、教育目標達成をめざしている。 【数値指標】 ＜保護者/地域住民アンケート＞ 学校の様子がよく分かり、また伝える場がある→80%以上	ホームページを適宜更新して常に新しい情報の発信に努める。連絡帳や各種たより等を活用して学校での児童の様子を担当が意識的に家庭に伝えたり、保護者の声には誠意を持って対応したりしていくよう努める。	【達成状況】 B1 保護者の肯定的回答 70.7% (72.8%) 地域住民の肯定的回答 100.0% (91.7%) A 【次年度の方針】 各種便りやホームページを活用して、学校の取組を積極的に情報発信していく。保護者との連携をさらに密なものにするために、授業参観と懇談会の出席率の向上が図れるような工夫をする。家庭訪問や個人懇談も学校・保護者双方の負担を軽減しながら持続可能な方法を探り、充実・継続していく。

教育活動の状況	生活	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 <児童アンケート>児童は、時と場に応じたあいさつをしている→80%以上 <保護者/地域住民アンケート>児童は、時と場に応じたあいさつをしている→70%以上	児童会中心に児童の自発的なあいさつ運動が展開されるよう指導する。教職員も率先してあいさつをするとともに、同歩調で児童の意識を高めて、家庭と連携した取組、環境づくり等の指導を継続していく。	【達成状況】 A10 児童の肯定的回答 88.7% (87.9%) 保護者の肯定的回答 70.5% (74.0%) 地域住民の肯定的回答 88.9% (76.9%) 【次年度の方針】 児童会中心に児童の自発的なあいさつ運動が展開されるよう指導する。教職員も率先してあいさつをするとともに、同歩調で児童の意識を高めて、家庭と連携した取組、環境づくり等の指導を継続していく。さらに陽西地区地域学校園であいさつの時期を合わせ、児童会を中心にあいさつ運動が行われるようにしていく。
		A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 <児童アンケート>時と場に応じた言葉づかいをしている→70%以上 <保護者/地域住民アンケート>児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている→70%以上	教職員自らが適切な言葉づかいを心がけ、率先垂範する。授業中・休み時間等の児童の言動に留意し、必要に応じてその場で指導を加えることにより校内の言語環境を整えていく。また、機会あるごとに家庭に啓発していく。	【達成状況】 A11 児童の肯定的回答 80.2% (79.1%) 保護者の肯定的回答 66.4% (70.0%) 地域住民の肯定的回答 88.9%(84.6%) 【次年度の方針】 教職員自らが適切な言葉づかいを心がけ、率先垂範する。授業中・休み時間等の児童の言動に留意し、必要に応じてその場で指導を加えることにより校内の言語環境を整えていく。また、機会あるごとに家庭に啓発していく。
		B2 相手を尊重し、思いやる心を大切にしながら人と関わっている。【全】 【数値指標】 <児童アンケート>児童は、友だちを大切にしている→80%以上 <保護者/地域住民アンケート>相手を尊重し、思いやる心を大切にしている。→80%以上	縦割り班活動等により、下の学年の児童に対する思いやりの心が育ちつつある。今年度もさらに異学年集団活動などの様々なかかわりの場を積極的に設定して活動していくよう努める。また、いじめ防止のための基本理念に基づいた取組にも関連させ、教育活動全体を通して思いやりや助け合いの心を育てていく。	【達成状況】 B2 児童の肯定的回答 90.4% (89.6%) 教職員の肯定的回答 90.0%(97.4%) 保護者の肯定的回答 81.5%(82.3%) 【次年度の方針】 縦割り班活動等により、下級生に対する思いやりの心が育ちつつある。今年度はさらに、児童会活動や行事などを通して、お世話になった人への感謝の気持ちや、お互いの良いところを認め合う場を設定する。また、いじめ防止のための基本理念に基づいた取組にも関連させ、教育活動全体を通して思いやりや助け合いの心を育てていく。
	健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 <児童アンケート>児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している→80%以上 <保護者アンケート>児童は、平日の授業後や休日などに積極的に運動している→80%以上	運動教具や運動環境の改善・充実を図るとともに、「元氣あっぷノート」やチャレンジカードの一層効果的な活用法について、教職員の共通理解を深める。また、ドッジボール月間や長なわウィークを設け、目当てをもって教職員と児童が共に活動するなど児童の体力づくりを推進する。	【達成状況】 A12 児童の肯定的回答 89.4%(90.8%) 保護者の肯定的回答 63.2(89.5%) 【次年度の方針】 運動教具や運動環境の改善・充実を図るとともに、検定カード改善も行い、一層効果的な活用についての教職員の共通理解を深める。また、ドッジボール月間や長なわウィークを設け、目当てをもって教職員と児童が共に活動するなど児童の体力づくりを推進する。

学 習	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、好き嫌いなく給食を食べている →80%以上 ＜保護者アンケート＞ 自分の子どもは好き嫌いなく食事をしている→80%以上	担任と栄養教諭が連携し、給食時や学級活動の時間を活用して、児童の食事や栄養のバランスに関する意識を高める。さらに、味覚を育て、食の楽しさを体験できるよう献立や食材を工夫する。 また、ホームページや各種たよりで給食の様子を保護者に伝え、家庭と連携して好き嫌いなく食べられるよう児童を励ましていく。	【達成状況】 A13 児童の肯定的回答 79.6%(79.5%) 保護者の肯定的回答 71.6%(73.2%) 【次年度の方針】 担任と栄養教諭が連携し、給食時や学級活動の時間を活用して、児童の「食」に関する意識を高める。さらに、味覚を育て、食の楽しさを体験できるよう献立や食材や食べ方を工夫する。 また、ホームページや各種たよりで給食の様子を保護者に伝え、家庭と連携して偏食が少なくなるよう児童を励ましていく。
	B3 児童は、弁当の日や給食でマナーや栄養のバランスについて学んでいる。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、お弁当の日や給食でマナーや栄養のバランスについて学ぶことができる。→80% ＜保護者/教職員アンケート＞ 児童は、お弁当の日や給食でマナーや栄養のバランスについて学ぶことができる。 →80%以上	給食を活かしたお弁当の日の取組や、授業・給食委員会を活用した日常の「食」に関する活動等を学校だより等で周知して食育に関する啓蒙を図り、家庭と連携した食育指導の推進にさらに努めていく。	【達成状況】 B3 児童の肯定的回答 88.2%(87.6%) 保護者の肯定的回答 93.2% (95.8%) 教職員の肯定的回答 100.0% (97.4%) 【次年度の方針】 給食を活かしたお弁当の日の取組で家庭と連携した学習プリントを活用したり、食の関連行事・授業・給食委員会の活動など日常の「食」に関する活動を学校だより等で周知したりして家庭と連携した食育の推進にさらに努めていく。
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している→80%以上 ＜保護者アンケート＞ 児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している→80%以上	授業の目当てを明確化し、提示物などの教材を工夫し児童の意欲付けを図る。 地域学校園の「学習の手引き」を活用し、地域学校園共通の課題として取り組んでいく。	【達成状況】 A14 児童の肯定的回答 87.3%(87.0%) 保護者の肯定的回答 82.1%(83.8%) 【次年度の方針】 授業では、目当てを明確化するとともに、児童が進んで取り組めるよう教材や導入の工夫をし、本時の課題を児童と共有できるようにしていく。「学び合い」や「振り返り活動」を適切に取り入れることで、主体的に学ぶ態度を育成する。
	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、授業中に先生や友だちの話をよく聞くなど落ち着いて学習している →80%以上 ＜保護者アンケート＞ 児童は、授業中に先生や友だちの話をよく聞くなど落ち着いて学習している→80%以上	発達段階に即して作成した学習のきまりについて、時期を決めて指導を徹底し、児童の意識を一層高める。 「一人一授業」や校内研修を通して教師が互いに学びあい、より良い指導についての共通理解を図る。	【達成状況】 A15 児童の肯定的回答 86.5%(82.3%) 保護者の肯定的回答 84.8%(87.1%) 【次年度の方針】 <u>学習のきまりは、全校で共通理解した上で、年間を通して指導を徹底し、児童の意識を高め定着させていく。</u>話の聞き方については「聞き方のきまり」を活用し、話を聞く態度の育成に努める。

本校の特色・課題等	B4 自ら考えたり、友だちと話し合ったりしながら、問題を追究しようとする 【全】 【数値指標】 ＜保護者アンケート＞児童は、自分の考えを持てるようになってきている。→80%以上	グループ学習やペア学習による話し合いの場面を意図的に設け、互いに学びあう授業を心がける。また、「話す・聞く」についての指導を一層重視し、「話し合い活動」の場を日常の授業の中で積極的に設定する。	【達成状況】 B4 児童の肯定的回答 87.3%(90.2%) 教職員の肯定的回答 90.0%(89.5%) 保護者の肯定的回答 82.1%(86.8%) A 【次年度の方針】 授業では自分の考えをもつ場を意図的に設定し、考える習慣とスキルを身に付けていく。<u>ペア学習やグループ学習を意図的に設け、共に学ぶよさが実感できるようにする。</u>
	B5 児童像実現のための、本校4プロジェクト（やさしさ・勇気・喜び・夢）が主体的・積極的に推進されている。 【全】 【数値指標】 ＜教員アンケート＞主体的にプロジェクトに関わり、創造的に改善に取り組んでいる。→80%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞学校は、教育目標達成のために工夫している。→80%以上	4 プロジェクトの教育活動が定着してきているので、今後は特に重点的な活動を明確にし、頑張る学校プロジェクトと連携し、さらに活動の改善・充実を図る。 また、学校の取組について保護者に情報の発信をしていく。	【達成状況】 B5 教職員の肯定的回答 100.0%(100.0%) 保護者の肯定的回答 83.4%(85.9%) 地域住民の肯定的回答 100.0%(100.0%) B 【次年度の方針】 4 プロジェクトの教育活動の「やさしさ」に重きを置いた取り組みをして、効果があった。29年度は特に「喜び」を重点的活動として活動の目標や手立てを明確にし、頑張る学校プロジェクトと連携し、さらに活動の改善・充実を図る。 また、学校の取組について保護者に情報の発信をしていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

教職員、保護者、地域、児童の全体的に肯定的割合が昨年度より高くなったものは、5のいじめ対策である。教育相談、いじめに関するアンケート、いじめの集会の実施など年間を通して学校全体で取り組んできたことが、功を奏したと思われる。日課の工夫や情報提供、あいさつに関して教職員の評価は高くなっているが、授業中の積極的な児童の状況に関しては若干低くなっている。今年度は、学力向上アドバイザーを講師として呼び出し、校内研修サポート事業の実施など教員の授業力向上に努めてきた。その分、教職員一人一人に高い目標が生まれ、現状を厳しく判断した傾向もある。児童は、軒並み評価が高くなっている。昨年の反省から、児童の自己肯定感を高める指導を地域学校園全体で継続してきた成果は大きいと思う。しかし、保護者の評価は全体的に低くなっている。一つ一つの教育活動の目当てや実践の状態を公開し、情報を発信していく必要がある。学校、地域、家庭との連携や相互作用で児童の教育的価値が高まることを啓発していきたい。さらに、教職員が児童の伸びや良さをしっかり伝え、正しい自己評価ができるようにしていく必要がある。そのためにも、授業参観や公開授業、各種たよりやHPで発信していく必要がある。

6 学校関係者評価

今年度もボランティアの方々のご協力により、幅広い活動で様々な支援が効果を上げている。また、地域連携教員とコーディネーターで検討し円滑で充実した支援がなされてきた。加えて、「魅力ある学校づくり地域協議会」のご協力により、児童の活発な活動や登下校の安全を重視した活動がさらに広まっていることに感謝したい。今後は更に無理の無い形で連携を進めるとともに、継続的に地域の教育力を生かしていくよう努力していくことが必要である。地域協議会の方たちにも、貴重な意見をいただき参考にさせていただいている。本校の教育活動における取組の様子は、学校だよりやHP等を通して保護者や地域に適切に発信されているが、次年度は、日常の教職員の学校教育活動に対する取組や、児童・保護者への誠意有る対応等をさらに継続していくとともに、学校と家庭の連携を強化し、課題解決に向けて具体的な対応を進めていく必要があると考える。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

総合的に見ると児童の意識や意欲が向上し、教育活動一つ一つが充実しつつある。また、ボランティア等の地域の教育力を活用した教育活動も児童の間に定着し効果を上げている。次年度も課題について具体策や組織を検討し、更により良い学校づくりを目指して一層の改善に努めるとともに、それらの情報を適切に発信し、保護者や地域の理解を得ることで学校に対する信頼も高まっていくと考える。

○基本的な学習や生活面での習慣は身についてきている。教職員は、「わかる・できる・楽しい授業づくり」の研究をさらに

進め、児童の学力を高めていく研修を引き続き行う。「自分の良さを活かして、粘り強く活動していく」ためには、自他の良さを認め合う環境が大切である。さまざまな教育活動の場面で、認め、励ましていく指導を心掛けたい。

また、教育の基盤として、教職員の資質の向上や学校経営参画意識の高揚を図ることはもとより、保護者・地域社会との連携をさらに進めることも重要である。○地域とともに子どもを育てるかかわりや環境を大切にしていくために、「地域と連携した活動の充実」や「小中一貫教育」などについて、無理のない形での継続・発展を目指した取組により、児童へのより良い指導・支援を充実させていきたい。